

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 海外研修プログラム：「台北医学大学との学生交流」（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、今年度で3年継続しているプログラムである。大学院生を対象として、台北医学へ2週間派遣した。
- ・台北医学大学薬学部の研究室を見学、各自の研究内容に関する発表と意見交換を行った。
- ・台北医学大学の附属病院及び提携病院で、主に薬剤師が行っている業務や臨床研究部門を見学し、薬剤師業務や医療・保険制度の両国間の違い等について意見交換を行った。
- ・東北大学においても同様の研修を行っており、合同の成果発表会を実施した。

◇ 参加人数：臨床薬学専攻博士課程学生2名

<富山大学>

○ ニュージーランド語学研修（*）

- ・学部生を対象として、外国人教員が帯同の上、ニュージーランドでホームステイをしながらの語学研修を実施した。

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修（*）

- ・南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験した。

<金沢大学>

○ 薬学類・創薬科学類 シンシナティ短期留学プログラム

- ・学部生を対象として、スーパースターグローバル大学創成支援構想と方針に従って、海外派遣・留学プログラムやインターンシップ先等の開拓と、単位認定に関するカリキュラム制度を構築した。

- ・2年次生の第2クォーターに、学生が海外研修へ行くことを推奨している。短期留学プログラムは単位化されており、他の科目の履修に大きな影響を与えず海外研修を行うことができる。
 - ・本プログラムにより、アメリカ合衆国オハイオ州シンシナティ シンシナティ大学 ELS Language Centers シンシナティ校への2週間の短期留学を実施した。現地で英語研修を受け、現地の病院・薬局、薬学系学部の訪問、University of Cincinnati Medical CenterやThe University of Cincinnati, College of Medicineなど薬学系学部や病院・薬局等を訪問し、施設見学やスタッフ・学生との交流を行った。
- ◇参加人数：学部生10名

<静岡県立大学>

○ 薬学英语

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する教育を行った。

○ 卒業研究発表を英語でチャレンジ

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）のサポートを得て、希望者について研究発表を英語で行った。

○ 科学英語

- ・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<京都大学>

○ 海外自主学修プログラム（香港）

- ・参画大学連携の海外自主研修プログラムとして、現地体験を通じて海外と日本における薬学教育や医療制度の違いを考えグローバルな視点を身につけるために、香港中文大学及び香港特別行政区内の公立病院・地域薬局を訪問した。
- ・香港中文大学では、授業に体験参加するとともに、学生主体で日本での薬学教育や医療制度を説明し、両国の違いについて先方の教員やインターン修了生と意見交換を行った。
- ・公立病院および地域薬局では、薬剤師業務について現地調査し、医療制度の違いと関連付けながら業務内容の違いに関して理解を深めた。

◇参加人数：教員2名、学生8名（京都大学6名、千葉大学2名）

<岡山大学>

○ 成均館大学薬学校での英語開講授業の体験的聴講事業（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、韓国成均館大学薬学校での英語で開講されている薬学専門教育科目を体験的に聴講し、併せて同校の学生との交流を行った。
- ・「特殊講義（国際連携薬学人材育成プログラム）（2単位）」として実施した。

- ◇ 参加人数：薬学科学生2名、製薬科学科学生・博士前期課程学生3名
- 全学対象で実施する語学研修のための短期留学事業
 - ・学部生（学年を問わず）を対象として、オーストラリア等で語学研修短期留学を実施した。グローバル人材育成コースを履修する学生は必須科目とした。
- ◇ 参加人数：学部生3名
- 日韓合同セミナー「薬学系国際連携博士学位プログラム：構想から実現へ」（*）
 - ・大学院生を対象として、シンポジウム形式のセミナーと合同の企業見学訪問を実施した。

<徳島大学>

- 海外とのビデオカンファレンスなどを通じたグローバル薬学教育（*）
 - ・学部生を対象として、本学と提携関係にある米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業とし実施した。
 - ・5年次生、6年次生が中心となって、1つの症例について検討会とインターネット回線を用いたビデオカンファレンスを3～4回行った。
- ◇ 参加人数：16名

2) その他（大学としての取組等）

<金沢大学>

- 大学間交流協定及び部局間交流協定
 - ・金沢大学薬学系・瀋陽薬科大学（中国）・釜山大学校薬学大学（韓国）の部局間交流協定に基づき、瀋陽薬科大学で開催された国際合同シンポジウムに教員と学生を派遣した。

<静岡県立大学>

- 日中健康科学シンポジウム
 - ・大学院生を対象として、2年に1回、本学と浙江省医学科学院との共催で日中健康科学国際シンポジウムを開催し、大学院生が口頭発表を行った。
 - ・本年度は浙江省医学科学院で開催した。
- 薬食国際カンファレンス
 - ・大学院生を対象として、2年に1回、本学大学院薬食研究推進センターが中心となり、健康食品や代替医療に関する国際会議を開催し、大学院生がポスター発表を行った。

<名古屋市立大学>

- 台北医科大学薬剤部見学
 - ・学部生を対象として、九州大学主催の国際研修会に参加した。

- ・病院(TMU)及び近隣病院(萬芳病院、双和病院)を見学後、各病院の指導薬剤師と意見交換を行った。

◇ 参加人数：6年次生1名

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を行う。

<熊本大学>

○ 米国ニューメキシコ大学 (UNM) 海外連携教育プログラムの開発

- ・UNMとの生命科学研究を支える大学院教育プログラムの開発を実施した。

○ 「日本・アジア青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプラン)」 (*)

- ・本学薬学部は、フィリピン大学ロスバニョス校獣医学部の学生10名と教員1名を迎えて、熊本大学、さらに県内各所において最新の医薬や獣医学さらにそれらに関連する研修を実施した。

○ 「日本・アジア青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプラン)」 (*)

- ・中国薬科大学の学部生4名、大学院生4名、教員2名を招聘し、熊本大学を拠点とする先端的施設や教育・研究に触れ、中国の薬学教育・研究を牽引する人材の育成に寄与する研修プログラムを実施した。

○ 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム

腎臓発生生物学の最先端技術を活用した難治性腎疾患治療戦略の構築 (*)

- ・2016年より、学術振興会の事業「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム (腎臓発生生物学の最先端技術を活用した難治性腎疾患治療戦略の構築 H28-H30)」に採択され、熊本大学薬学部を起点としたチームと海外の共同研究チーム (ジョージア州立大学、エール大学、米国国立ガン研究所) との連携のもと、研究・教育の相互交流を図った。
- ・2017年度は、本学部の薬剤師教育の主要な指導者などを海外に派遣し、高度な薬剤師教育のための補強を図った。

○ 医療人養成教育研究のための教員の国際交流 (*)

- ・2018年度以降の大学院医療薬学専攻授業科目として「海外臨床研修プログラム」の構築に向けて教員の人的交流を開始した。
- ・本年度は平成28年度は、ニューメキシコ大学薬学部等から3名の教員、研究者を招聘し、特別講演会や本学部の4年生を対象とした「Team-based Learning」の実践やその評価方法、本学部の授業の参観など、教員の人的な交流を行った。

○ 海外臨床研修プログラムの構築

- ・ニューメキシコ大学薬学部との教員の人的交流を踏まえて、相互理解のもとに、2018年度以降の大学院医療薬学専攻授業科目として「海外臨床研修プログラム」の構築

に向けたと取組を開始した。